海外から研修員に聞く

パンターウォンサー・セトゥワンさん

ラオス人民民主共和国
Ms. Phanthavongsa Setouvanh
ラオス科学技術・環境庁　技術員
JICA札幌「地域環境保全対策と技術」コース
（2005年9月27日～11月19日）で研修。

昔の日本女性は彼女のような

ひっそりと、不安そうな表情で、しかし微笑みを浮かべて近づいてきた女性がいた。その人がセさんであった。「セ」さんの本名はとても長い。姓はパンターウォンサーさん（60%くらい近い発音!）、名はセトゥワンさんという。終始静かに、慎ましく、そして一生懸命に話す様子、笑顔でゆったりと頷く風情に、昔の日本女性はこうだったのではないかと、何か懐かしさを覚えた。

「札幌の景色は国と似ています」

熱帯モンスーン地帯に属し日中の気温は概ね30度を超すラオスから来て、「札幌に到着して周囲の景色がラオスに似ていると思いました。国の北部と南部は山岳地帯でそれなりに涼しいです。生えている植物や木々がとてもよく似ています」。遠くまで来たが少しホッとしたらしい。

日本には、大阪、神戸、新潟など暖かい地方に3回ほど来たことがある。北国に憧れていたので今回の研修先が北海道札幌と聞いた時には飛び上がるほど嬉しかったそうだ。「氷の国だわぁ～(セさんは何度もアイスランドと言った)!」。この時ばかりは慎みもどこへやら破顔一笑、本当に楽しそうだった。

今回の研修の目的は

今回は2カ月にわたって、大気汚染や水質汚濁、廃棄物処理まで環境保全全般にわたってその調査、分析、施策などを研修した。「多数の専門分野を一度に学ぶにはちょっと時間がたりません。もっと勉強したいのです」。今後の研究のことを考えている様子で、「いずれは環境保全の分野で学位を取りたいので奨学金を得て再度日本の大学などに留学したいと思っています」と真剣な表情で希望を聞かせてくれた。

「ラオスにはゴミ処理施設が整っていないので今はベトナムやタイに送って処理してもらっています」。首都ビエンチャンは、メコン川に面して開けた街である。メコンはミャンマー・ラオス、タイ・ラオスの国境線をなし、カンボジアとベトナムを貫流して南シナ海に注ぐ国際河川である。この大河を関係国で管理保全にあたるメコン委員会(MRC)という機関がすでに活動を開始しているそうであるが、「いずれ川の汚濁も」、と心配していた。

観光資源も豊富

独立を巡って戦乱が続いた時代もあったが、貴重な寺院や王国時代の遺跡などは守られて今や観光資源になっている。インタビューの翌日、「ラオスに鉄道」というニュース報道があった。メコン川対岸のタイのノンカイまで来ている鉄道が当面ビエンチャンまで延びるという。この話を知らなかったので「鉄道がないので貿易も何でもトラック輸送で時間とコストがかかります」と、セさんはため息をついていた。鉄道は将来は中国まで伸長する計画ということで経済、観光への効果が大きいだろう。

「いろいろな民族が集まっている国なので文化は多様で民族衣装や織物などとても綺麗です」、「メコンの中州の島、コーン島の周辺には大きな滝が何カ所もあります」とガイドブックを広げながら紹介してくれた。15mの高さから落下する勇壮なメコン川の姿を見たいという気持ちになった。

ビエンチャン後方の丘に建つ黄金の寺院タートルアン（1566年創建）。ラオスのシンボルといわれる

NRCニュース

江別市立大麻中学校で国際理解教室

（平成17年10月7日　江別市）

南アフリカ出身でマリンバやジンベの奏者、ジョセフ・ンコシさんと大阪在住のジンベ、カホン奏者、横沢道治さんが、江別市立大麻中学校を訪問、演奏や話を通じてアフリカ文化の一端を紹介した。生徒たちは両氏の白熱の演奏に自然に体を揺らしたりして音楽を楽しみ、また希望者がステージに上がってンコシさんから、南アフリカの歴史から生まれたガムブーツダンスの講習を受けた。

（事業部）

国際交流会 in ひがしかわ

（平成17年11月2ー3日　東川町）

北方圏センターの国際理解促進事業の一環として、5ヵ国7名の海外研修員などが、大雪山の豊かな自然に囲まれた東川町を訪れ、中学生や地元の皆さんの大歓迎を受けた。東川中学校の「収穫祭」に参加した研修員は、全校生徒の合唱の歓迎を受け、同校で栽培した米を使った餅つきに挑戦し、生徒と一緒にサンバを踊るなど楽しい交流を行った。町長も参加した交流会では、出身国の紹介や東川音頭で盛り上がったほか、各ホームステイ先でも温かなもてなしを受け、相互理解を深めることができた。（共催：東川町、東川町教育委員会、東川町国際文化交流協会、東川中学校 協力：東川町ホームステイボランティアの会）

（国際協力部）

町長から記念品を贈られる

「懸け橋そして未来へと」北海道の国際交流・国際協力事例集

北方圏センターは、海外と姉妹友好都市提携を結んでいる道内74市町村のうち6割にあたる45市町村を訪れて具体的な国際交流・協力の事例をまとめ、国際交流事業の参考にとこのほど発行した。必要なデータ集も含めて本文184頁、A4判フルカラー印刷。希望者には特別頒価¥1,200（送料別）で頒布する。詳細、希望の方は北方圏センター調査研究部へ。（電子メール rch@nrc.or.jp　電話 011（221）7840）